

(国語科)

## 豊かな言語力を身につけすすんで課題解決に取り組む子どもを育てる

～学校図書館を効果的に活用した国語科の学習を通して～

大阪市立神路小学校 研修部

### 1. 研究主題設定の理由

平成 25 年度より「伝え合う力を育てる」を研究主題として、指導方法の改善や教材の工夫を重ねてきた。この主題は教科指導のみならず学級経営など集団育成での取り組みにおいても意識的にとらえられている。ハンドサインや話型といった手法を徹底していくことで、その形式の意味に気づいて、応用が利くようになった児童も増えているが、十分に浸透しているとは言えない。

そこで、昨年度より、標記の研究主題を設定し、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科を中心として、学校図書館教育と連携しながら研究を進めてきた。

本研究では、豊かな言語力と豊かな感性を培うとともに、それらに裏打ちされた課題解決能力を身につけた児童を育てることをめざすこととした。

### 2. 研究の趣旨

研究主題のねらいを達成するために、読書環境を量的・質的両面から整え、それらを総合的に生かしながら、単元の学習過程が児童自身の学習課題を思考力や判断力を生かしながら自力解決できる過程となるよう、単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりを進めることを研究の柱とした。

昨年度の研究実践により、読書環境は概ね整備されてきた。しかし、児童が自らの課題を解決するにあたり、必要な情報を取捨選択する力についてはついてきたものの、それらを再構成してまとめる点において、まだまだ課題は残っている。本年度は I C T 機器も積極的に活用しながら研究主題に迫っていきたい。

### 3. 研究の概要

#### ○めざす子ども像

研究主題を受け、本校では、本年度の研究活動を通して、次のような児童の姿の実現をめざす



## ○研究の目標

	言語力の側面からの目標	課題解決の側面からの目標
低学年	読書の楽しさを知り、進んで本に親しむことができるようにする。	自分の調べたい図書を見つけ、そこから気に入った情報をたくさん見つけ出すことができるようにする。
中学年	読書を通して、語彙力を高め、進んで表現する力を身につけるようにする。	見つけた情報の中から必要な情報を選択し、整理しながら学習を進めることができるようにする。
高学年	相手に分かりやすい表現の仕方を身につけ、自分の思いや考えを豊かに表現できるようにする。	課題に対して自分の考えをもち、多くの図書の中から必要な情報を選択し、効果的に活用したり整理したりしながら学習を進めることができるようにする。

## ○研究の視点

研究の視点を言語活動から大きく以下の2つの視点とし、研究主題を迫ることにした。

「言語活動の充実を図った国語科の授業研究」

「言語活動を支える学校図書館教育」

また、授業研究を進めながら、以下の3点を図書館教育の面からも迫っていった。

- ・ 学校図書館を活用した学習を充実させるための環境整備
- ・ 読書習慣を定着させる取り組み
- ・ 学校図書館利用の活性化

## (1) 研究の成果

- 児童の意欲を継続させ一人一人に支援（図書資料・ヒントカード・ワークシートなど）を駆使しながら各自の学習課題を自力で解決する力がついてきている。
- 充実した図書の活用を取り入れた国語科の授業研究を通して、言語力向上の研究と読書活動の活性化をリンクさせることで、豊かな言語力が身につくことが分かった。
- 学校図書館の利用だけでなく、公共図書館も積極的に利用した。単元に関連した図書を集団貸出で借り、調べ学習や並行読書に活用した。本がたくさんあることで、選択の幅が広がり、そのことが児童の学びを広げ、深めることにつながった。
- 毎月の学年だよりや図書館だよりにより、図書の紹介を掲載して、家庭での啓発を行った。そのことも、家庭での読書習慣につながった。

## (2) 今後の課題

- 国語科の指導のあり方として、「児童の実態をふまえた弾力的な指導」「既習事項とのつながりを押さえた指導」「理解を深める手立ての工夫」などが課題として残った。
- 課題解決学習に有効に活用できる図鑑等の図書資料を充実させるなど、「学習室」の整備を更に進め、学習情報センターとしての機能を一層充実させる。
- 読書への関心を高め、読書習慣を定着させる種々の取り組みについて、各学年の発達段階を考慮しながら、更に工夫していく。